









会 告

平成 18 年度農業土木学会賞の決定について	69
平成 19 年度農業土木学会賞候補の推薦について	69
平成 18 年度学術基金援助の決定について	70
平成 19 年度日本農学賞候補の推薦について	70
研究部会長の交代について.....	70
平成 18 年度「研究グループ」の助成金募集について	71
平成 18 年度農業土木学会大会講演会の開催について（第 3 報） 	71
第 30 回水の週間「ウォーターフェア 06 東京」農業用水の展示出展について.....	73
2005 年度農業工学関連分野 JABEE 認定校及び認定プログラムの決定	73
平成 18 年度農学系 JABEE 研修会への参加のお願い	73
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	73
農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について.....	74
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....	75
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ.....	75
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！.....	76
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「農業土木学会誌」平成 19 年春季用の表紙写真の募集	77
新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集.....	77
国際水田・水環境工学会 2006 年（第 4 回）国際研究集会の開催について 	78
第 5 回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議 	79
支部講演会の投稿票について.....	79
第 57 回関東支部講演会の開催について（第 1 報） 	79
第 61 回中国四国支部講演会の開催について（第 1 報） 	80
平成 18 年度九州支部第 29 回地方講習会・第 37 回支部研修会の開催について 	80
平成 18 年度農村計画研修会（第 28 回現地研修集会）について 	80
農地保全研究部会第 27 回研究集会（第 2 報） 	81
ICID 第 4 回アジア地域会議および第 10 回 PIM 国際セミナーにおける発表論文募集について	82
農業土木学会第 243 号内容紹介.....	84
学会記事	88

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、
「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

第 74 巻 7 号予定

展望：粕淵 辰昭

小特集：湿地の特性と湿原保全のための湿原管理

湿生植物群生地の水収支と土壌水分動態：星 透他

湿原水文学研究の現状と北海道東部湿原の水文特性：土原健夫他

湿原植生復元のためのトレンチ灌漑による地下水位制御：飯山 一平他

泥炭地湿原におけるメタンバブルの存在、挙動とその役割：常田 岳志他

圃場整備事業による赤井谷地湿原の水環境保全と今後の展開：笹田 勝寛他

技術リポート

北海道支部：非開削誘導式水平ボーリング工法を用いた管の道路横断工：田原 和紀他

東北支部：国営水利施設を活用した消流雪用水の試験通水：河内 功他

関東支部：地域資源循環型社会をみざす土地改良の取組み事例：松本智加良

京都支部：農業水利施設防災情報整備事業の概要：裏田 正次

中国四国支部：「芝をもって雑草を制す！」やまぐち型畦畔法面緑化工法：銭本 徹

九州支部：ユニットブライス型積算（施設機械）について：池田 明


講座：水土文化への誘い（その 5）人を見よう - 人を介して水土文化を捉える -：重岡 徹























小講座：伏流式人工湿地：加藤 邦彦

私のビジョン：中野 恵子

農業土木学会（本部）行事の計画

農業土木学会（本部）行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成18年8月 8～11日	大会運営委員会	平成18年度農業土木学会大会講演会 		宇都宮大学	73巻12号 74巻1号3号
平成18年8月	農業農村情報研究部会	企画セッション 	農業イノベーションと農業農村情報研究	宇都宮大学	
平成18年8月	応用水理研究部会	企画セッション 	農業土木分野における応用水理学研究の課題	宇都宮大学	
平成18年8月	水文・水環境研究部会	企画セッション 	水文・水環境研究と大気との接点	宇都宮大学	
平成18年8月	水土文化研究部会	企画セッション 	様々な水土の知	宇都宮大学	
平成18年8月	材料施工研究部会	企画セッション 	「材料と施工」に関する最新の話 農業土木の美務と研究における	宇都宮大学	
平成18年8月	畑地整備研究部会	企画セッション 	畑地かんがいの現況と今後の課題	宇都宮大学	
平成18年8月	農村生態工学研究部会	企画セッション 	生態系配慮技術の向上に向けて	宇都宮大学	
平成18年8月末	資源循環研究部会	平成18年度研究発表会 	(未定)	パシフィコ横浜	
平成18年9月7日	畑地整備研究部会	第45回畑地かんがい研究集会 	(未定)	岩手県盛岡市	
平成18年9月 7日～8日	農村計画研究部会	第28回現地研究集会 	水土で築く豊かな環境 阿蘇の取り組みに学ぶ	熊本テルサホテル	74巻6号
平成18年9月 26～27日	農地保全研究部会	第27回研究修会 	環境と調和した農地保全	北見芸術文化ホール	74巻65号
平成18年10月 11～12日	九州支部	第29回地方講演会 第37回支部研修会 		佐賀市アバンセ	74巻6号
平成18年10月 15日	土壌物理研究部会	第45回研究集会 	期待される土壌物理学（仮題）	北海道大学（予定）	
平成18年10月 26日	関東支部	第57回支部講演会 		前橋市	74巻6号
平成18年10月 26日	中国四国支部	第61回支部講演会 		米子コンベンションセ	74巻6号
平成18年11月 9日～10日	京都支部	第63回支部研究発表会 		关西サバーサイドホテル	74巻5号
平成18年11月 16日～17日	水文・水環境研究部会	第19回シンポジウム 	農林地および広域の水文・水環境	島根大学	74巻5号
平成18年11月末	農業水利研究部会	平成18年度研修会 	(未定)	東京都	
平成18年12月 (予定)	応用水理研究部会	講演会 	(未定)	(未定)	
平成19年2月 (予定)	材料施工研究部会	第44回シンポジウム 	構造物の損傷に関する非破壊探査（予定）	兵庫県神戸市（予定）	
平成19年3月	水土文化研究部会	シンポジウム 	水土文化研究の現在（仮題）	つくば農林団地（予定）	

平成 18 年度農業土木学会賞の決定について

平成 18 年度の農業土木学会賞は、平成 18 年 4 月 20 日（木）の第 196 回理事会において、学術賞 1 件、研究奨励賞 4 件、優秀論文賞 2 件、優秀技術賞 3 件、優秀技術レポート賞 6 件、著作賞 3 件、教育賞 1 件、環境賞 2 件、歴史・文化賞 2 件、地域貢献賞 2 件、国際貢献賞 1 件、メディア賞 3 件、功労賞 5 件、上野賞 3 件、澤田賞 2 件が決定いたしました。授賞式は、来る 8 月 8 日（火）、宇都宮大学多目的ホールで開催される平成 18 年度大会講演会第一日目に行われます。なお、詳細は本号巻頭平成 18 年度農業土木学会大会講演会ページを参照下さい。

平成 19 年度農業土木学会賞候補の推薦について

平成 19 年度の農業土木学会賞（上野賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。
締切りは、平成 18 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

平成 19 年度 農業土木学会賞 募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞		
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀技術賞	優秀技術レポート賞
賞の趣旨	農業土木に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業土木に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業土木に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業土木に関する単独の研究業績	農業土木に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業土木に関する単独の技術レポート業績
賞の対象範囲および期間	平成 13 年 10 月から平成 18 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 15 年 10 月から平成 18 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 15 年 10 月から平成 18 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 17 年 10 月から平成 18 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。	平成 16 年 10 月から平成 18 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成 13 年 10 月から平成 18 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された技術レポート（ただし、平成 19 年度の募集は農業土木学会誌 73 巻 1 月号～74 巻 9 月号が対象となります）
受賞候補者	会員			会員または会員の属する組織・団体		会員
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。		

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業土木に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる著者	農業土木教育、農業土木技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工の事例並びに管理・保全活動	農業土木に関する歴史・文化を広く紹介、或いは研究分析の業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業土木に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業土木を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積重ねを通じて農業土木の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成 8 年 10 月から平成 18 年 9 月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成 13 年 10 月から平成 18 年 9 月までの業績を対象とする	平成 16 年 10 月から平成 18 年 9 月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成 13 年 10 月から平成 18 年 9 月までの業績を対象とする	平成 13 年 10 月から平成 18 年 9 月までの活動を対象とする	平成 13 年 10 月から平成 18 年 9 月までの活動を対象とする	平成 16 年 10 月から平成 18 年 9 月までに発表された、農業土木に関連した作品を対象とする。	平成 18 年度末に 65 歳以上に達している個人
受賞候補者	著者 会員の資格の有無を問わない	会員または会員の属する組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員または会員の属する組織・団体	会員	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員（名誉会員を除く）
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または農業土木技術者継続教育機構運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業土木学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成 18 年 10 月末日							
提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 社団法人 農業土木学会 学会賞選考委員会宛							

平成 18 年度学術基金援助の決定について

学術基金運営委員会

平成 18 年度学術基金の援助は、平成 18 年 4 月 20 日開催の第 196 回理事会にて、下記のように決定いたしました。

記

学術基金による国際学会会議出席助成

ムハマッド・ア シュラフ	鳥取大学農学部鳥取大学 連合研究科博士課程	CONCET 2006-9 th International Conference on Concrete Engineering and Technology (第 9 回コンクリート工学・技術国際会議)	マレーシア, KL 市
正木一平	神戸大学大学院自然科学 研究科食料生産環境工学 専攻博士前期課程	Eight International Conference on Modeling, Monitoring and Management of Water Pollution (第 8 回水質汚染のモデリング, モニタリング及びマネジメン トに関する国際会議)	イタリア, ボローニャ

学術基金による研究奨励

AE 法を用いたパイプラインシステムの漏水・損傷度 評価法の開発	鈴木哲也 日本大学生物資源科学部 生物環境工学科 専任助手	・大野健太郎 熊本大学大学院自然科学研究科 ・磯田 俊郎 熊本大学大学院自然科学研究科 ・伊藤 久也 ㈱日本水工コンサルタント
高分子電解質によるコロイド粒子の凝集過程	青木謙治 筑波大学大学院生命環境科学 研究科	・足立 泰久 筑波大学大学院生命環境科学研究科 助教授

平成 19 年日本農学賞候補の推挙について

平成 18 年度日本農学賞の候補を下記によりご推挙いただきたいと存じます。適当と認められる候補がありましたら下記規程により、平成 18 年 9 月 15 日までにご推薦下さいますよう、お願い申し上げます。

記

日本農学賞候補推挙取扱規程

第 1 条 この規程により、本会会員で次の条に該当する業績をあげたものに対し、日本農学賞候補に推挙する取扱いを行う。

第 2 条 推挙する業績は、発表された論文または著書とし、本学会を代表する業績として、十分その価値が評価されるものとする。

第 3 条 推薦者(正会員)は、毎年 9 月 15 日までに、次の事項を記し、会長に推薦する。

ただし、必要ある場合は推薦者に関係資料の提出を求めることができる。

(イ) 候補業績(論文, 著書名)

(ニ) 候補者連絡先

(ロ) 候補者氏名(ふりがな)

第 4 条 推挙の決定は、理事会が行う。

(ハ) 候補者所属, 職名, 学位

研究部会長の交代について

下記の研究部会長の交代が行われました。

農業土木学会応用水理研究部会(平成 18 年 4 月 1 日付)

新 板垣 博(岐阜大学応用生物科学部)

前 加藤 治

農業土木学会農地保全研究部会(平成 18 年 4 月 1 日付)

新 長澤 徹明(北海道大学大学院農学研究科)

前 大坪 政美

農業土木学会水土文化研究部会

新 太田 信介((独)水資源機構)

前 佐藤 政良

平成 18 年度「研究グループ」の助成金募集について

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は、原則 1 件 20 万円程度 3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 18 年 6 月 30 日(金)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会 HP 参照)で研究委員会委員長宛にお申込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

- 1 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
- 2 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
- 3 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
- 4 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ)具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ)「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ)「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ)「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 36 歳未満であること。

- 5 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1)研究経過報告書の執筆にあたり、農業土木学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり 1-2 ページに収まるようにまとめること。

注 2)「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成 18 年度農業土木学会大会講演会の開催について(第 3 報)

平成 18 年度農業土木学会大会運営委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 18 年度農業土木学会大会講演会は、平成 18 年 8 月 8 日(火)、9 日(水)、10 日(木)の 3 日間、宇都宮市の宇都宮大学峰キャンパスで開催されます。また、11 日(金)には現地研修会が行われます。

本報では、講演発表の方法など、いくつかの連絡事項についてお知らせします。本誌 2006 年 3 月号会告でお知らせした内容とは異なっている点がありますのでご注意ください。

なお、割引のある大会参加申込みは 6 月 30 日(金)が締切となっています。まだお申込みでない方は、学会ホームページからお申込みください。参加申込みの詳細は 3 月号会告をご覧ください。

1. 印刷製本版講演要旨集は受注生産制です 6 月 30 日までにお申込みください。締切後の申込みならびに大会当日の購入はできません。
2. CD-ROM 版講演要旨集は事前にお届けします 6 月 30 日までに申込まれた方全員に、CD-ROM 版講演要旨集を大会の約 1 週間前までにお届けします。

3. 大会概要集を発行します 大会プログラム、学会賞受賞者プロフィール、発表者索引、全発表の 200 字概要、現地研修会資料、企業団体広告等を一冊にまとめた大会概要集を発行します。大会当日、受付にて参加申込み者全員にお渡しします。

4. 参加費の会社経費・公費等によるお支払いに応じます ご希望の方は、FAX にてお申し込みいただき、その際連絡事項欄に「会社経費・公費払い」と明記してください。後日、請求書をお届けします。ただし、この場合の参加費は当日申込みと同様の扱い(印刷製本版講演要旨集なし：一般 ¥7,000、学生 ¥5,000、印刷製本版講演要旨集あり：一般 ¥11,500、学生 ¥9,500)とさせていただきます。

5. 講演会場までの交通 講演会場の宇都宮大学峰キャンパスへは、JR 宇都宮駅から路線バスまたはタクシーをご利用ください。

JR 宇都宮駅(西口)から

JR バス(西口バス乗り場 3 番): 清原台団地、清原球場、祖母井(うばがい)、茂木、陽東桜ヶ丘行など

東野(とうや)バス(西口バス乗り場 14 番): 真岡、益子、

海星学院, 清原球場行など

「宇大前」下車 日中 10~20 分間隔 約 15 分 200 円

JR 宇都宮駅(東口)から

タクシー 約 10 分 約 800 円

6. 交流会場までの交通 大会初日夕方の交流会は, ニューイタヤホテル(宇都宮市大通り 2 4 6)にて, 18 時 15 分より開催されます。講演会場の宇都宮大学からは, 送迎バスを手配しています。路線バスをご利用される方は, 「宇大前」から JR バスあるいは東野バスで東武宇都宮駅へ向かうバスにて「上河原町」で下車(所要時間約 20 分)

7. 講演発表の手順 発表者は各会場にある発表者受付で, セッション開始時までに出席確認を済ませてください。各会場内前方に「次の講演者」席を設けてありますので, ここで順次待機してください。とくに発表にパソコンをお使いの方は, この席であらかじめパソコンをケーブルに接続し(プロジェクタにはパソコン用映像入力端子が 2 つ備わっています), 発表用ファイルを立ち上げたうえで発表をお待ちください。本年次は各会場に発表用のパソコンを準備しますが, お手持ちのパソコンと同様の動作は保証いたしかねますので極力ご持参ください。円滑な進行にご協力ください。

8. プロジェクタと OHP について 全会場に発表用プロジェクタを用意しています。あわせて OHP 使用希望者がいる会場には OHP も用意します。休憩時間等にあらかじめ機器の扱い方を必ずご確認ください。プロジェクタは発表準備室にも用意しています。

9. 要旨集は休憩室でござらいただけます 閲覧用の講演要旨集を休憩室に備えますのでご利用ください。

10. キャンパス内での喫煙について 建物内における受動喫煙防止にご協力ください。

11. 連絡掲示板(ホワイトボード)を設置します 連絡用の掲示板を受付付近に設置します。参加者相互の呼び出し, 集会の呼びかけ等に自由にご利用ください。事務局からの各種連絡, 忘れ物等も掲示します。

12. 大会会場における電話呼び出しはいたしません 会期中宇都宮大学へのお電話はご遠慮ください。

13. 学会の出版物を展示販売します 会期中, 講演会場内に学会出版物の展示, 予約販売ブースを設け, 特別価格で予約販売します(送本は後日となります)。学会出版物を手にとりてご覧いただきご利用ください。

14. 会期中の昼食は大学内および周辺の食堂で 会期中は大学の生協食堂が営業しますのでご利用ください。また売店では弁当, おにぎり等も販売しています。なお, 弁当の予約販売はいたしません。

15. 会議室のご要望について 大会会期中, 研究部会の幹事会や各種打合せ等のために会議室を必要とされる方は, 7 月 14 日まで taikai@env.mine.utsunomiya-u.ac.jp へお申し出ください。大会会場内の会議室利用および昼食の手配について事前調整します。

16. 現地研修会の出発集合場所・時間ならびにコース 8 月 11 日(金)の現地研修会は, 那須野が原開拓の歴史探訪コース, 農村環境と地域資源活用コースとも, JR 宇都宮駅東口から出発します。8 時 50 分までにお集まりください。

A: 那須野が原開拓の歴史探訪コース 那須疏水開削にはじまる那須野が原開拓の歴史を那須野が原博物館や開拓にまつわる史跡, 国営事業等により整備された施設を見学し, 農業土木がいかに地域の農業発展に寄与したかを紹介します。

【8:50 JR 宇都宮駅(東口)集合 9:00 出発 17:00 頃 JR 宇都宮駅着】

- ・那須野が原博物館(那須塩原市)
- ・サテライト見学(那須疏水さわやかルート)
- ・道の駅「湯の香しおばら」
- ・小水力発電施設・岩崎頭首工他見学(那須塩原市)

B: 農村環境と地域資源活用コース 農村環境を守るための取り組みや基盤整備事業を期に地域資源を活用した都市・農村交流を実践している地区を巡り農業土木と地域の農業・農村振興との関わりを紹介します。

【8:50 JR 宇都宮駅(東口)集合 9:00 出発 17:00 頃 JR 宇都宮駅着】

- ・西鬼怒川地区のグラウンドワーク活動(河内町)
- ・有機物リサイクルセンター美土里館(茂木町)
- ・ツインリンクもてぎ(茂木町)
- ・都市と農村の交流・清原南部地区(宇都宮市)

*各コースとも, 経路は変更になる場合があります。また, 申込みが少ないときは中止する場合があります(最少催行人員: 約 20 名)。

17. 旅行手配について 大会運営委員会は, 旅行の斡旋(宿泊, 航空券等の手配)は行いません。なお本大会の参加申込み受付業務を委託している近畿日本ツーリスト(株)宇都宮支店が, 宿泊等の手配をお手伝いしています。学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)のリンクをご覧ください。

18. お問合せ先

(1) 大会全般に関するお問合せ

平成 18 年度農業土木学会大会運営委員会事務局

〒321 8505 宇都宮市峰町 350

宇都宮大学農学部 後藤章

☎028 649 5497 FAX 028 649 5507

E-mail taikai@env.mine.utsunomiya-u.ac.jp

Web <http://env.mine.utsunomiya-u.ac.jp/jsidre2006/>

(2) 参加申込み・宿泊等に関するお問合せ

近畿日本ツーリスト(株)宇都宮支店

農業土木学会受付係 担当: 山田, 山崎, 長谷川, 大塚

〒320 0801 宇都宮市池上町 2 2

FAX 028 638 5576 ☎028 633 2151

E-mail utsunomiya-d@or.knt.co.jp

第30回水の週間「ウォーターフェア06東京」農業用水の展示出展について

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア06東京』は、例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、農業土木関係諸団体の協力を得て、農業土木学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年度までと同様に展示の準備を進め出展することとなりました。

出展準備は、関東農政局西関東土地改良調査管理事務所が鋭意

行っております。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示テーマ 「お～い水！ 豊かさを運ぶ」

展示の場所 科学技術館（千代田区北の丸公園2-1）

期 日 平成18年7月28日～8月1日

2005年度 農業工学関連分野 JABEE 認定校及び認定プログラムの決定

2005年度に農業工学関連分野として日本技術者教育認定機構（JABEE：Japan Accreditation Board for Engineering Education）へ、プログラム認定を申請していた下記4校4プログラムは、平成18年5月8日の理事会をもってすべて認定を受けました。

（なお、2005年度に認定を受けた全プログラムはJABEEのホームページに掲載されています。<http://www.jabee.org/OpenHomePage/program-2005.htm>）

高等教育機関名	プログラム名	認定年
九州大学農学部 生物資源環境学科 生物資源生産科学コース・地域環境工学分野	農業土木プログラム	[2005年]
高知大学農学部 生産環境工学科	流域環境工学教育コース	[2005年]
弘前大学農学生命科学部 地域環境科学科	農業土木プログラム	[2005年]
三重大学生物資源学部 共生環境学科 地域保全工学講座	農業土木プログラム	[2005年]

平成18年度農学系 JABEE 研修会への参加のお願い

技術者教育認定に関する検討委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



本年も農学系 JABEE 審査員養成研修会が7月29日に東京大学弥生講堂にて開催されます。

本号では日程と会場のみのお知らせですが、詳細は農業土木学会のホームページに掲載致しますので、ご参照下さい。多くの皆様の参加を期待しております。奮って、ご参加ください。

日 時：平成18年7月29日（土）

場 所：東京大学弥生講堂〒113 8657 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学農学部内

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

問い合わせ先：農業土木学会事務局

菊辻 猛 宛 tkiku@jsidre.or.jp

花塚賀央 宛 hanatsuka@jsidre.or.jp

<申込締切：平成18年7月14日（金）>

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録について

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対

する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断

される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるように、事前に皆様方の登録をお願いしておくことといたしました。登録を希望された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野: 水理, 水文・気象, 土壌物理, 土質, 地質・地理, 環境, 地域(農村)計画, 一般, 灌漑排水, 農地造成, 農地整備, 農地保水, 水産土木, 材料・施工, 農業機械, 集落排水, その他

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取扱います。

農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について

農業土木学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

行事企画委員会と継続教育機構は平成17年10月より、通信教育の試行を行い、平成18年4月より本格実施を行う予定でしたが、残念ながら参加者は少数に留まりました。参加希望者は多いものの、通信教育制度が多くの方に認知されていないこと、また、制度についての正確な情報が不足していることから、平成18年4月から10月までの6カ月間試行を延長し、より広く情報を伝えることといたしました。延長試行期間中いつでも参加可能です。是非、通信教育にご参加いただきたく、お願い申し上げます。

1. 参加会員の募集

この試行に参加をご希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある**参加申込書**に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX 03 5777 2099 へ送信してください。

今回の試行が成功し、本格運用へ移行するためには、多くの会員の参加が必要です。しかし現在、少数であり本格実施のために、周囲の方に声をかけていただき、多数のご参加をお願いします。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込み様式がありますので、ご記入の上お申込み下さい。

2. 申込期限

この試行への参加は、いつからでも可能です。短期間であっても参加し、意見をお寄せ下さい。

3. 試行の事務局

試行の事務局は、機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

4. 試行の内容

3カ月前の学会誌の報文を主体に機構試行部会が作成した問題を毎号学会誌に掲載します。

問題は択一式とし、5月からは毎回10問を掲載します。一つの報文から数問、報文の事実的内容から問題を作成します。

回答は、メールにて機構へ返信し、採点結果から7割正解で1CPD、満点で1.5CPDが与えられ、継続教育記録として自動的に登録されることとなります。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 試行の評価と本格運用への移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、修正を加えた上で本格運用に移行したいと考えています。

なお、農業土木学会誌4月号より継続教育機構の広報ページ「CPD ニュースレター」を掲載しています。是非ご参照下さい。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年3月末にはVol 4 No.1(Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems)が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)

- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたはFAXでお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお祝いと 編集事務局(投稿先)の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年3月末にはVol 4 No.1(Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems)が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

編集事務局の移転: 2003年1月の学会設立以来、農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが、2006年1月1日からは新Editor in Chief; 中野芳輔九州大学教授の下、韓国農業工学会が今後3年間(～2008年12月31日まで)、編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い、Editorial Panelの構成メンバー(編集体制)および新投稿先が下記ようになります。

ただし、2005年12月末までに投稿された原稿は、日本(農業土木学会)の責任において進められ、Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

新投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engi-

neering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : + 82 2 562 3627 , 562 3613 Fax : + 82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針 : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31)

- Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan
- Editors 13 力国から 14 名
- Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

農業土木学会誌編集委員会

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1 500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 げ 4 ページ厳守)
74 巻 7 号 湿原・湿地の管理と環境保全 I 湿地の特性と湿原保全のための湿原管理	公募終了	
8 号 湿原・湿地の管理と環境保全 II 湿地としての農地管理	公募終了	
9 号 圃場整備と農業生産法人 (仮)	公募終了	平成 18 年 4 月 14 日
10 号	公募なし	
11 号 モニタリング技術の最前線 (仮)	公募終了	平成 18 年 6 月 15 日
12 号 北海道における大規模畑地整備 (仮)	公募なし	平成 18 年 7 月 14 日
75 巻 1 号 「水土の知」について (仮)	公募なし	平成 18 年 8 月 15 日
2 号	公募なし	
3 号 新潟中越地震関連 (仮)	平成 18 年 8 月 25 日	平成 18 年 10 月 13 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集がテーマは仮題となっておりますものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷り上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違っ

たもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室

の紹介, その他の取組み状況を含めて, 職場, 学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは, 刷上がり1ページ(1,800字程度)で, 写真を1

~2枚程度入れてください。

私の勤める本は, 原稿の長さ: 1,200字 (写真・体裁等含む刷り上がり1ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい)

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!
「農業土木学会誌」平成19年春季用の表紙写真の募集
農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では, 平成19年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構: 先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で, 学会誌第75巻(平成19年1~12月号)のうち, 特に春季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は, 過酷な自然の猛威にさらされながらも, 農業経営, 防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路, 頭首工, 堰堤などの水利施設は, それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで, 水を制御するという力強さに, そして周囲の自然景観にとけ込むことで, その美しさに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には, かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言えるべき名高いものもありますが, 私たちが身近で目にする農村地域にも, 規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で, 「先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」を, 学会誌の表紙写真でご紹介ください。

2. 写真の種類

単写真, 組写真いずれもカラープリントで六ツ切り。デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定し, 撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は, そのことを明記してください。

3. 枚数

応募写真には制限がありませんが, 未発表のものに限ります。

4. 締切 平成18年6月30日(春季の写真)

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから, 今年は募集す

る季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか, 表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には, 水利構造物の形状や機能が, その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない), デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない, ことが採用の条件となります。

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選びます。

7. 結果発表

学会誌75巻1号で入賞者と掲載号を発表し, 入選作品は, 平成19年度大会会場でパネル展示します。

8. 賞品

入選作品1点につき3万円(表紙掲載料含む)。応募者には記念品をお送りします。

9. 応募資格

学会員でなくとも結構ですので, 周囲の方々にもお勧めください。

10. その他

応募写真の裏面にタイトル, 郵便番号, 住所, 氏名, 年齢, 職業, 電話番号, 性別, 写真のテーマ, 撮影場所, 撮影月日, 撮影データ(フィルム, 使用カメラ等)を記入して下さい。対象物の名称(固有名詞), 対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ, だれが, どうして等)もお寄せ下さい。

原則として, 応募写真は返却いたしません。なお, 入選作の著作権は, (社)農業土木学会に属します。

11. 宛先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会
 農業土木学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集

農業土木学会編集委員会

農業土木学会誌ではこのたび新シリーズ「水利遺産探訪」を開始し, 第1弾として会員の松本(前)(独)農業工学研究所理事が投稿された「(京都の)桂川「一の井堰」物語」を掲載しております。つきましては, 本シリーズに掲載する原稿を広く会員の皆様から募っておりますので, 奮ってご投稿いただくようお願い申し上げます。

わが国では, 古来, 先人の知恵と努力により多くの農業土木に関係した水利施設が造成されてまいりました。「温故知新」という言葉がありますが, 「農業土木」を改めて知るために, ふるき水利遺産をたずね, 先人の歩んだ道をふりかえることは重要なことであると考えています。そして, ふるき水利遺構にこめられた先人の「水土の知」を, 未来で活かしていくための「未来へのメッセー

ジ」としてまとめていきたいと考えております。

また、海外協力の分野においては、土地改良区を中心とする日本の灌漑排水システムが良きモデルとして注目されており、海外で日本の経験を如何に適應させるかが求められています。そのためにも、我々の先人の知恵と経験を他国で活用できるように整理することが必要になっています。

農業土木学会では、過去、「水土を拓いた人びと」を発刊した他、石狩川、北上川等の各水系農業水利誌(史)を発行してまいりました。今回のシリーズでは、会員の方に親しまれる内容のものを目指したいと考えており、取り上げる内容についても、構造物だけに限らず計画や人物などに焦点をあてたものも含めて幅広いものにしていきたいと考えております。

ご投稿は会員の皆様께서書きやすい任意のテーマでお願いします。シリーズ名は「水利遺産探訪」ですが、「排水」や「干拓」に関連したものや、比較的最近のものを扱っていただいてもかまいません。お近くや過去携わったことのある水利施設等をテーマに気軽にご投稿下さい。

なお、投稿は何時でも受け付けておりますが、今回の京都の次は「江戸の水利遺産・遺構」がテーマのものを先ず掲載したいと考えています。分量の制限はございませんが、分割して掲載させていただくこともありますので、あしからずご理解頂ければ幸いです。

皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

国際水田・水環境工学会 2006 年(第4回)国際研究集会の開催について テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理()

PAWEES 2006 (4th) International Conference On

Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production ()

農業土木技術者継続教育認定プログラム申請中



主催: 国際水田・水環境工学会

PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering

共催: 農業土木学会, 韓国農工学会, 台湾農業工程学会

趣旨

国際研究集会「持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理」は、周辺環境との調和に配慮した持続的水田水管理の適切な技術とその応用に関する最新の研究についての情報交換を目的として、以下の内容の下に開催されることとなりました。

1. 水田のエコロジカルサービス向上への実践および政策枠組み

キーワード: 実施事例, 機能定量化, 社会・経済性評価など

2. 流域レベルにおける水田稲作を中心とした統合的資源管理

キーワード: 土地利用計画, 資源の高度利用, 参加型管理など

研究集会では、最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに、水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し、将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに、過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し、食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることとします。

また、日本の研究者・技術者が過去に築いてきた関係国・地域、関係研究機関等との連携を強化し、その他諸国の広汎な連携を推進することも意図しています。

主催学会の PAWEES は 2003 年 1 月に設立されました。設立の主な目的は、第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題、なかでも非常に重要な役割を果たしている水田農業を、流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直すとともに、環境や人

口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取入れた新しい技術・学術体系として水田農業工学を確立し、その国際化を図ることが重要であるとの認識に由来しているものです。

水田・水環境に関連する研究・技術に携わっておられる方々にとっては、意義のある研究集会です。奮って参加されますよう、お知らせいたします。

1. 日時: 2006 年 8 月 10 (木) ~ 11 日 (金)
2. 場所: 宇都宮大学農学部
3. テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理()

4. 講演発表の募集(終了しました)

5. 主要なスケジュール

1) 講演原稿

アブストラクトの受付開始

: 平成 18 年 3 月 20 日 (月) (終了)

アブストラクトの提出期限

: 平成 18 年 4 月 16 日 (日) ("

原稿採択通知 (E mail): 平成 18 年 4 月 26 ~ 30 日 ("

採択原稿の提出期限 : 平成 18 年 6 月 30 日 (金)

2) 参加登録:

登録期間: 平成 18 年 3 月 20 日 ~ 6 月 10 日

(定員に余裕がある場合のみ、研究集会当日に可能)

参加登録費: 5,000 円

講演要旨集は、研究集会当日にお渡しします。

6. 問合わせ先

松野 裕 (PAWEES 2006 事務局長)

近畿大学農学部国際資源管理学科

〒631 8505 奈良市中町 3327 204

メールアドレス: matsuno@nara.kindai.ac.jp

吉武 幸子 (農業土木学会編集出版部長)

(社) 農業土木学会事務局

〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4

農業土木会館 3 階 1 号室

メールアドレス: pawees 2006@jsidre.or.jp

第 5 回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議
(5th International Conference on Educational Accreditation System and
APEC Engineers Project for Agricultural Engineering
in Paddy Farming Regions) の開催について

農業土木技術者継続教育認定プログラム申請中



当会は韓国農業工学会、台湾農業工程学会との共催で平成 14 年より表記会議を開催してきました。第 1 回は WWF のプレシンポジウム、第 2 回は WWF 3 の開催時に京都市で開催、平成 16 年は韓国安山市、平成 17 年は台湾台北市で開催され 3 年振りに日本で下記要領で開催されます。会議における話題提供は、各国学会代表者により行われますが、今回は公開で行います。JABEE、技術士、APEC エンジニア等、技術者資格に興味のある方々の参加を募ります。会場の準備もありますので、希望者は当学会事務局にお申込み下さい。

記

1. 日 時 平成 18 年 8 月 11 日 (金) 13:30 ~ 17:00
2. 場 所 宇都宮大学多目的ホール (平成 18 年度農業土木学会大会講演会第 1 会場)
3. 議 題
 議題 1. 技術者教育認定システムについての各国報告
 (台湾、日本、韓国から報告予定、日本からは JABEE

の最近の動きについての報告を予定)

- 議題 2. APEC エンジニアをめざした技術者育成についての各国報告
 (日本、韓国、台湾から報告予定、日本からは CPD 機構、APEC エンジニアをめぐる動きについての報告を予定)
- 議題 3. 水田農業地域における農業工学の技術者のための教科書出版について
 (各国技術者に共通的な教科書出版の必要性、計画について議論する予定)

4. 事務局

〒105 - 0004 東京都港区新橋 5 34 4
 (社) 農業土木学会調査研究部 菊辻・小松山
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
 E mail:tkiku@jsidre.or.jp

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各支部講演会担

当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投稿規定に従って下さい。

第 57 回関東支部講演会の開催について (第 1 報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日程:平成 18 年 10 月 26 日 (木)
 支部大会 10:00 ~ 11:00
 講演会 11:00 ~ 16:00
 情報交換会 17:30 ~ 19:00
 平成 18 年 10 月 27 日 (金)
 現地研修会 8:30 ~ 16:00

2. 講演会場:群馬県前橋市内

3. 参加申込み

- (1) 講演会、情報交換会、現地研修会
 上記申込み締切日:平成 18 年 8 月 31 日 (木)
- (2) 講演申込み
 申込み方法:講演希望者は、

「講演者氏名」、「演題(仮題でも可)」、「講演要旨(200 文字以内)」

以上を明記のうえ、事務局あて申込みください。

申込み締切日:平成 18 年 7 月 31 日 (月)

原稿締切日:平成 18 年 8 月 31 日 (木)

講演時間:15 分以内(質疑応答時間含む)

4. 問合せ先(事務局)

群馬県農業局農業基盤整備課技術調査グループ
 〒371 8570 前橋市大手町 1 1 1
 ☎027 226 3163 FAX 027 224 8744
 E-mail sibu-r @ pref.gunma.jp

5. その他 詳細は、本誌 8 月号に掲載する予定です。

第61回中国四国支部講演会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育認定プログラム



1. 講演会

- (1) 日 時:平成 18 年 10 月 26 日(木)
 (2) 会 場:米子コンベンションセンター ビッグシップ
 〒683 0043 米子市末広町 294
 TEL 0859 35 8111 FAX 0859 39 0700

2. 情報交換会

- (1) 日 時:平成 18 年 10 月 26 日(木)
 (2) 会 場:未 定

3. 現地研修会

- (1) 日 時:平成 18 年 10 月 27 日(金)
 (2) コース:未 定

4. 問合せ先(講演会参加窓口と原稿提出窓口を別にしていますのでご注意ください)

講演会発表原稿提出窓口

農業土木学会中国四国支部事務局 村上 章
 〒700 8530 岡山市津島中 3 1 1
 岡山大学大学院環境学研究所社会基盤環境学専攻
 TEL・FAX 086 251 8881
 e-mail sakura@cc.okayama-u.ac.jp

講演会参加申込窓口

鳥取県農林水産部耕地課企画計画担当 島崎,木村
 〒680 8570 鳥取市東町 1 220
 ☎0857 26 7334,7336(直通) 0857 26 7111(代表)
 FAX 0857 37 1281

5. 詳細 本誌7月号に掲載予定です

平成 18 年度農業土木学会九州支部
第 29 回地方講習会・第 37 回支部研修会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 演題

- 1) 地方講習会 未定
 2) 支部研修会 未定

2. 日時

- 1) 地方講習会 平成 18 年 10 月 11 日(水) 午後
 2) 支部研修会 平成 18 年 10 月 12 日(木) 午前

3. 場所

佐賀市 アバンセ(佐賀県立女性センター・佐賀県立生涯学習センター)1F ホール
 〒840 0815 佐賀市天神 3 2 11

どんどんの森内

☎0952 26 0011 FAX 0952 25 5591

4. 問合せ

農業土木学会九州支部担当事務局
 佐賀県土づくり本部農山漁村課計画調整担当
 中村・重富
 〒840 8570 佐賀市城内 1 1 59
 ☎0952 25 7124 FAX 0952 25 7284
 Email nakamura-yoshimitsu@pref.saga.lg.jp
 Email shigedomi-kazuhiro@pref.saga.lg.jp

平成 18 年度農村計画研修会(第 28 回現地研修集会)について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主催:農業土木学会農村計画研究部会

後援:熊本県,水土里ネット熊本(熊本県土地改良事業団体連合会)
 協賛:農村計画学会

2. テーマ:水土で築く豊かな環境 阿蘇の取り組みに学ぶ

3. 日程:平成 18 年 9 月 7 日(木)8 日(金)

4. 会場:熊本テルサ テルサホール

5. プログラム

- (1) 研修集会 平成 18 年 9 月 7 日(木) 9:30~16:45
 8:45~9:30 受付
 9:30~9:45 開会挨拶

9:45~11:15 基調講演「農政の改革と地域資源保全
 ふるさと資源の再発見」

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 生源寺真一

11:15~12:00 講演「農村資源とツーリズムについて」

(財)阿蘇地域振興デザインセンター事務局長 坂元英俊

12:00~13:00 休憩

13:00~13:40 事例報告「水循環型営農運動について」

水土里ネット大菊事務局長 紫藤和幸

13:40~14:20 事例報告「ボランティアで取り組む阿蘇
 の草原保全活動」

(財)阿蘇グリーンストック専務理事 山内康二

14:20~14:50 情勢報告「熊本県の農業農村整備と資源
保全施策」

熊本県農村整備課農村環境室長 榎 純一

14:50~15:00 休憩

15:00~15:40 情勢報告「資源保全施策と今後の農業農
村整備の展開方向」

農林水産省農村振興局設計課技術調査官 仲家修一

15:40~16:40 パネルディスカッション

「豊かな環境の継承に向けた阿蘇の資源保全の取り組み」

コーディネータ

農村工学研究所都市農村交流研究チーム長 石田憲治

パネリスト

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 生源寺眞一

農林水産省農村振興局設計課技術調査官 仲家修一

阿蘇地域デザインセンター事務局長 坂元英俊

水土里ネット大菊事務局長 紫藤和幸

(財)阿蘇グリーンストック専務理事 山内康二

アナウンサー(フリー) 風戸直子

16:40~16:45 閉会挨拶

(2) 現地検討会 平成 18 年 9 月 8 日(金) 8:30~15:00

8:30 熊本テルサ 集合

8:40 熊本テルサ 出発

研修の場所: 鼻ぐり井手, ASO 田園空間博物館など

15:00 熊本空港 解散

15:50 JR 熊本駅 解散

6. 参加費用

研修集会参加費 6,000 円

現地検討会 4,000 円(昼食代 1,000 円含む)

7. 参加申込

参加をご希望の方は参加申込書(部会ホームページからダウン

ロードして下さい)に所要事項をもれなく記入の上、FAX または
郵送にてお申し込み下さい。なお、原則として団体ごとにまとめ
てお願いいたします。申し込み多数の場合は、定員 400 名に達し
次第締め切らせていただきますので、あらかじめご了承下さい。

なお、台風等の自然災害で現地研修会が開催できない場合でも
参加費の一部(3,000 円)は申し受けますので、予めご了承下さい。

(1) 申込期限 平成 18 年 7 月 21 日(金)

(2) 申込先 農村計画研修会現地運営事務局
〒862 8570 熊本県熊本市水前寺 6 丁目 18 番 1 号

熊本県農林水産部農村計画・技術管理課

担当: 田上哲哉 宮部志郎

☎096 333 2406 FAX 096 383 6581

(3) 参加費の納入

申し込みをいただきますと 8 月上旬に請求書をお送りしま
すので、請求書の指定口座に振り込んで下さい。なお振り込
み手数料は参加者負担をお願いします。

(4) 申込の変更・取消

8 月 15 日(火)までに現地運営事務局まで FAX にてお申
し出下さい。それ以降の取り消しについては、参加費の返還
ができませんので、あらかじめご了承ください。

8. 宿泊施設 参加者各自でお申し込み下さい。

9. その他

詳細は、部会のホームページ(http://www.jsidre.or.jp/bukai/kei-kaku/2006_kumamoto.htm)をご覧ください。

【現地研修集会に対する問合わせ先】

農村計画研修会現地運営事務局

〒862 8570 熊本県熊本市水前寺 6 丁目 18 番 1 号

熊本県農林水産部農村計画・技術管理課

担当: 田上哲哉 宮部志郎

☎096 333 2406, FAX 096 383 6581

農地保全研究部会第 27 回研究集会(第 2 報) 環境と調和した農地保全

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 開催日

(1) 研究集会 平成 18 年 9 月 26 日(火)

(2) 現地見学会 平成 18 年 9 月 27 日(水)

2. 場所

(1) 研究集会 〒090 0811 北海道北見市泉町 1 丁目 2 22
北見芸術文化ホール・中ホール(JR 北見駅から徒歩 3 分)
TEL 0157 31 0909

(2) 現地見学会 国営総合農地防災事業(火山灰型)実施地区,
および北見市と網走市周辺

3. プログラム

(1) 研究集会 平成 18 年 9 月 26 日(火) 9:00~17:00

9:00~9:30 受付

9:30~10:00 開会式

10:00~11:00 特別講演

「薄荷の風香るまち」

北見ハッカ記念館 館長 横田 達哉

11:00~12:00 基調講演

「オホーツクの農業・農村と地域振興

地域・農業・環境の維持をめざして」

専修大学北海道短期大学 教授 山上 重吉

12:00~13:30 昼食

13:30~14:40 講演 1

「国営総合農地防災事業網走川上流地区の取り組み」

網走開発建設部 北見農業事務所

第二工事課長 本保 利征

14:25~15:15 講演 2

「土砂流出抑制工の効果調査」

(独) 土木研究所 寒地土木研究所

上席研究員 中村 和正

15:20~16:10 講演 3

「地域と連携した食農教育の取り組み」

JA つべつ 代表理事組合長 後藤 正則

16:10~16:20 休憩

16:20~16:55 総合討論

17:00 閉会

(2) 現地見学会 平成 18 年 9 月 27 日(水) 8:50~16:30

8:50~9:00 集合(北見市芸術文化ホール駐車場)

9:00 出発 16:30 JR 北見駅到着

見学場所 1) 国営総合農地防災事業 網走川上流地区

2) 道営畑地帯総合整備事業 津別西部地区

3) 仁頃はっか公園

4) 富里ダム

4. 参加費用等

(1) 研究集会参加費 3,000 円

(会場施設内での食事は禁止されているため、昼食の手配はいたしません。駅周辺の飲食店をご利用ください。)

(公費等による支払いにも対応可能ですが、別途手数料を 500 円頂戴いたします)

(2) 現地見学会参加費 3,500 円

(バス代 2,000 円 + 昼食代 1,500 円)

5. 参加申込

(1) 申込方法

申込は所属機関ごとに取りまとめの上、「研究集会申込書」様式(学会ホームページからダウンロードして下さい)にて、E-mail、郵送または Fax でお願いします。

(2) 申込先

〒090 0040 北見市大通西 1 丁目

JR 旅行センター 北見支店 農地保全研究部会研修会参加受付 担当

☎0157 23 8104 FAX 0157 23 4545

E-mail kitamiryose@jrhokkaido.co.jp

(3) 申込期限 平成 18 年 8 月 25 日(金)

(4) 参加費の振り込み

振込期限: 平成 18 年 8 月 31 日(木)

振込口座: 北海道銀行

札幌駅北口支店(152)普通 1063572

口座名義: 農業土木学会農地保全研究部会

6. 問い合わせ先(研究部会事務局)

〒060 8589 札幌市北区北 9 条西 9 丁目

北海道大学大学院農学研究院

土地改良学研究室 長澤徹明・山本忠男

☎011 706 2560 FAX 011 706 4177

E-mail nouchihozen-hokkaido@agr.hokudai.ac.jp

ICID 第 4 回アジア地域会議および 第 10 回 PIM 国際セミナーにおける発表論文募集について

2007 年 5 月、イラン・テヘランにおいて、ICID(国際かんがい排水委員会)第 4 回アジア地域会議および第 10 回 PIM(農民参加型かんがい管理)国際セミナーが開催されます。

この度、ICID 日本国内委員会は、下記の要項に従い、論文募集を行いますので、御希望の方は御参加下さい。応募いただきました論文については、ICID 日本国内委員会で閲読を行い、日本からの発表論文として提出する予定としています。

記

1. 会議開催概要

開催期間: 2007 年 5 月 2 日~5 日

開催場所: イラン・テヘラン

2. 論文募集の対象会議

1) 第 4 回アジア地域会議

2) 第 10 回 PIM 国際セミナー

3. 募集テーマについて

【全体テーマ】: Participatory Irrigation Management (PIM)

農民参加型かんがい管理

【サブテーマ】

(1) A Review on Participatory Measures in Irrigation

かんがいにおける参加型手法における考察

Implemented and proposed processes (frameworks, methods and indices)

Success stories on implemented projects

(2) Required Grounds and Facilities for PIM Formation

PIM 形成のための要求される背景と施設

Organizational reforms

Cultural, social and political grounds

Legal frameworks and norms

(3) Support System for PIM Sustainability

PIM 持続性への支援システム

Policies and strategies

Capacity building, training and extension

Monitoring and evaluation

4. 要旨(Abstract)作成要領等

1) 内容: 前述のテーマに沿った内容であること。また、問題解決方法、結果を導いたデータ、分析、結論を含むこと。

- 5つほどのキーワードを添えること。
- 2) 言語：英語
- 3) 文字数：約 250 ワード
- 4) タイトル：70 字以内が望ましい。
- 5) その他：脚注に著者の肩書きと所属および連絡先(TEL, FAX, E-Mail)を記載のこと。
(提出形態は電子ファイルで下記事務局まで)
- 6) 締め切り：2006 年 6 月 30 日(金)

5. 論文(Full Paper)作成要領等

応募いただいた要旨について、発表することが適当と判断したものににつきましては、採用本人に通知いたしますので、論文(Full Paper)をご用意下さい。

- 1) 全文の字数：4000 ワード以内(図表含め A4 で 15 ページ程)ただし、ケーススタディは 2000 ワード以内(図表含め A4 で 8 ページ程)

- 2) 締め切り：2006 年 10 月 16 日(月)
- 3) その他：論文(Full Paper)には、約 250 ワードの Abstract を記述すること。本文末尾に引用文献を記載のこと。
詳細は末尾に記載の事務局まで、お問い合わせ下さい。(公募が遅くなりましたことをご詫言申し上げます。)
また、会議情報や論文作成要領については、以下のホームページでもご覧頂けます。

<http://www.irncid.org/pim/2007/>

【論文送付先および問合せ先】

〒151 0001 港区虎ノ門 1 21 17 虎ノ門 NN ビル

(財)日本水土総合研究所

☎03 3502 1576 FAX : 03 3502 1329

担当：吉見 暁 satoru-yoshimi@jiid.or.jp

池浦 弘 hirosi-ikeura@jiid.or.jp

改訂 農村計画学

(社)農業土木学会

目 次

内 容 紹 介

<p>まえがき</p> <p>第 1 章 農村の特質と農村計画</p> <p>1.1 わが国の農村と計画の背景</p> <p>1.2 農村の特質</p> <p>1.3 農村計画の歴史</p> <p>第 2 章 農村計画の体系と構成</p> <p>2.1 農村計画の体系</p> <p>2.2 農村計画の構成と役割</p> <p>2.3 計画の主体と住民参加</p> <p>第 3 章 土地利用計画</p> <p>3.1 わが国の土地利用の特徴と課題</p> <p>3.2 土地利用計画の構成</p> <p>3.3 農業生産環境の整備と土地利用</p> <p>3.4 農村集落の土地利用秩序の実現</p> <p>第 4 章 生活環境整備</p> <p>4.1 生活環境整備の意義と必要性</p> <p>4.2 生活環境整備の考え方</p> <p>4.3 生活環境整備の計画手法</p>	<p>4.4 生活環境施設の整備</p> <p>4.5 生活環境施設と管理と整備効果</p> <p>第 5 章 農村環境整備の保全と管理</p> <p>5.1 農村環境と資源の循環利用</p> <p>5.2 水環境の保全と創造</p> <p>5.3 地域生態系の保全と管理</p> <p>5.4 景観の保全と形成</p> <p>5.5 環境管理の方法</p> <p>第 6 章 中山間地域の活性化</p> <p>6.1 中山間地域の現状と課題</p> <p>6.2 中山間地域への新たな期待</p> <p>6.3 中山間地域の活性化対策</p> <p>第 7 章 西欧の農村計画</p> <p>7.1 オランダの空間整備計画</p> <p>7.2 ドイツの農村整備</p> <p>7.3 フランスの土地利用計画</p> <p>7.4 イギリスの環境保全政策</p> <p>7.5 EU の条件不利地域政策</p>
---	--

A 5 判 284 ページ 定 価 4,200 円 (内税・送料学会負担) 会員特価 3,500 円 (内税・送料学会負担) [会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]	申込先 〒105 - 0004 港区新橋 5 - 34 - 4 (社)農業土木学会 TEL 03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
---	---